

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

名古屋山三
不彼休左馬

骨譜箱書女表紙

四

八遠13
1984
4

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

へ遠13
884
4

昔話 稻妻表紙巻之三

江戸

山東京傳編

本清

九 辻堂の危難

かつて山三郎へ银杏の前とておひ生駒山と越て河内の国におちぶんと
東の林麻竹林寺ちつきあつりまを逃来りけるお追人ども明松と
ふりてじて近くとおひつとさければ姫君おあやまちあぐんことと
おそれ傍の辻堂のうちにおはしおとそ引返し追人の大勢お向合て
権戦けが追人ども山三郎が猛勢おそれ秋の木の葉の散ごとく
四方お乱れて逃去りぬ山三郎今へ心安しと辻堂おあつてえ
ればこいふ銀杏の前へおはつと月のおりおよぐれば堂上の簾
のあつふ足のおとありおへ追人どもの計して我戦ひぬお姫君と

古今屋巻之三

奪去つる疑はし姫君と奪れてあふ面目ふあぶらふとこころ
決し刀ととりあはしてわどく腹おつきたえんうなる折も僕
の麻花総身朱小滌てあぶら走來り此体とていつとくは
とらぬ大息つきて不破伴左衛門甚那解花深層三平土子泥
助犬上鴈八等四人の者とわらひ草履打の宿恨ふもし人たぐ
あて三郎左衛門と打たる子細と涙あぶら小物語けれ山三郎大木
且怒り且悲涙滝のごとくうりあちてあぶら詞もいそざりけり
良ありといひけり今日ハいつある悪日ぞおん館の騷動といひ姫君
と奪られぬあぶらのあぶら伴左衛門某と打んぞ誤りて親人
と打たるまゝあぶら某と手と正して親人と打たるも同然あり死ぬ死ある
ぬ今夜の仕度とつた六姫君ととりあぶらと好臣等と亡し若

君以ゆりきて御家督とつた六伴左衛門等五人の者以打りて
父の冥前小手向冥途の恨みを尋ねて忠孝の道全かりぬ
今ハ二つも三つも不し命あるぞやさうあても親人の亡骸もとあ
せめてつたの葬りせん彼所一案内せし麻花とてとてお立出んと
あぶら所小此辺の百姓等とおぼし明松山前ふたて戸板のうらふ
屍とのせ蓑おかけてあげつこればよりありげらるる武士方と
つたあぶらむごうあぶら殺されたるまゝよ衣服大小懐中物提物を
その供ふあれば盗人の仕業もあぶらど片時もあぶら郡司ふ
きあて殺しあぶらあぶらあぶらあぶらあぶらあぶらあぶらあぶら
ぬ山三郎立上り此方ふらひあぶらあぶらあぶらあぶらあぶらあぶら
いひつ蓑あぶらあぶらあぶらあぶらあぶらあぶらあぶらあぶらあぶら

まれ。腹腹よと五臟六腑ふれ出て鮮血戸板ふるぐれきつ。
山三郎ひと目又ふよと悲難の涙ふむせり。地上ふ噴きたれ
伏も麻花百姓もむむ此屍へ當國佐と本殿の境内ふ三郎を傷門
こつふ人うらとふれろる。則その子息ふれ此死骸ハ此方へ送せし
女も汝もが越度ふるる夏ふあどといひきれば百姓ども死骸の
衣服の紋所と山三郎が衣服の紋所とおろど三本傘あはして
さて相違あれまどと安か。郡司の前ふ持出人もあうて
夏以とぬさんへ我くが仕合ろると納得。死骸は返してなすぬ。
かて山三郎あげきておららふことろと麻花ふあうの流水を
汲せて屍以清め後日改葬とらまてハ權くこふかきと
辻堂の板敷以るるのけて床の下以深く堀屍と埋てもあやし

おき。香烟の灰をこして水を手向本尊の石仏ふむりひ南无堂珠
地花菩薩悪趣の苦患以救む念じけ。あふも涙はこま
と此時三郎左傷門かおびたる刀ハ重代の左文字の刀二千五百貫
の折紙つきたる名作をさじがせめてのめと取地ら懐中物提物と
こもふ。麻花ふ持しめられ麻花いひるハ弟様二郎夏仕を辞て
後河内の国ふ住ふべ一旦彼地ふかん越あせこのふ処へ三郎左傷門か
乗馬のりさんふ馳来つ。山三郎が前ふ頭以たれて涙を流しなれ
山三郎その為体とらそ胸ふさぐ。汝親人の細花ふとあり。我居
所とまひ来て愁腸の体人ふもまこし。ふるまひありそ
撫のひるふ昔呉の孫堅董卓と戦て利と失ひ馬より落て
草中ふ臥衆軍分散してその在所とまふ。然ふ馬宮中ふ



名古屋山三郎
 銀杏前と杖
 館と母さま
 姫は追人ふ
 うづれて腹と
 ましんととと
 ろりへ麻花
 三郎た来つて
 間打ふ
 告
 ここと
 あい
 ろりへ

名古屋山三郎

名古屋山三郎

名古屋山三郎

ろりへ麻花

あつて軍人とみちびき草中ふりて孫堅扶ちめしと
汝はそれおもまさしぞといひければ麻糸も落渡し畜類と主
人の思ひをひてめくのごとく慈悲の人と生れていざ
みいざらんや伴左衛門等たふ天小道ありて登り地
とも其が一念の誠以て尋出御本懐以てげさせや
切の馬の年頭とあせまふ人畜類のなごいあれども我も汝も
傍輩して主君の思ひやうしじへ同然ある我は汝は
飢はせぬ飢たんとてあふの草ととりて与へ水ひる
つとけと山三郎幸の父が片刃の此馬これに乗じて
いひてひつとこのれが麻糸あふの枯枝とひろひ
と出火と點じて明松と前立て生駒山小にわたり
暗峠の難所もつと案内以てをまは口綱を馬

(十) 夢幻の落葉

それいさそおたるまふ六字南無右兼門の佐木館の
旅商人小舟以粉し一荷の荷物以てげ人目を
くこ面はかひと大和の園小の宿以てめか
入額田部村とよどきと栢木の森の邊とら通る木陰
うめく声いと苦しむきとえけはばぶるる立よ提
えふはあけけえ女の小袖の裾はたかかけた
ひたひたけしと打拵たる黒髪はふと乱し数所
血志となりとれと總才朱ふ染りうづり小休もた

傍ふあり長刀とつれば銀の蛭巻して梨地小倚懸目結の紋と
 一不蔭ぬこれ佐々木家の紋あられば益のぐり。女次抱き起して顔
 見えば六月若の乳母栢木ちる。ふむ右束門大不敬馬きたくは
 の気はけ薬ちると交へてさめぐ介抱されば。目次ひききおん
 牙ハ佐々良三八郎のあめぶとやとりふ。ふむ右束門いらくおん才い
 うる夏まで。痛手とおひ此所みはたうれ居あふぞ。その由急ぐり
 語つとゆとり栢木苦しに息成つき。今宵おん館の駈動あつぐの夏
 ちと姫君若君のおん命危きふよう。姫君ハ名護屋山三郎守護
 ておち行妾ハ若君以扶して立のたつ。途中中追人の大勢か
 ちつてかきられ。おどく若君以奪されんとあつた由急命かきり
 戦ずりく追人と斬散して。若君の御才恙ちる。此まどハ路

のびはつう。心ハ矢猛ふとやれども。あめこの深手小歩行つらふもこよ
 倒きて夢中ふちる。おん才の介抱ふあつた。もあつた。おん才は
 藤波以殺して。立のぐれ。夏実ハ若殿放埒の根成たんと忠義乃
 為トすれし。おん内方儀某のその消息を。始めてあつた。ゆりて
 姫君若君おも。おん才の誠心はききえあけて折もあつた。飯茶とあひ
 びひる。此度の大変ちる。さうりう。あつた。おん才おひた。いひて
 君の御運尽さる。所之妻此保手ちる。そもちる。命ちる。何とそ
 おん才若君以のあひし。再世のい。せまのれし。と泣くもの。か
 うらも。いと苦し。げ。かむ。右束門委細以。固十分。おん才。若君
 へいぐく。おちる。と。回。と。拍木。あ。つ。又。ま。月若の。おん才。と
 仰天。おん才。こ。おち。入。て。所。の。名。さ。栢木。の。木。の。雲。と。き。え。う。せ。ぬ。ゆ



めのかみ



月若の乳母
柏木若君を
守護して
おちきり
追人したくひて
深千とおふ

折しも。茂林のうちより。追人の人数。若君の口不積書。以
つたり。小腰おひらき。走り出。やうく佐良三郎。汝長谷部雲
六といひ合せて百蟹の巻物。以奪。藤波と害して。逃去たる大罪人。
ら。あてえはけけたる。天の矢。若君。以奪。なる。小汝と捕れ。へ。
両の手。小美食と握る。が。や。と。く。手。以。は。き。て。い。ぬ。め。と。う。け。
よ。若。手。む。ひ。る。と。せ。へ。忽。若。君。以。さ。し。殺。と。ぞ。返。答。い。ふ。と。う。れ。は。
かむ。右。傍。門。い。そ。ぐ。く。地。上。お。ひ。び。び。び。き。此。所。そ。お。ん。才。等。の。目。小
か。ま。じ。へ。某。が。運。命。の。尽。る。り。い。そ。ぐ。手。む。ひ。ひ。ひ。と。へ。き。と。く。繩。と
つ。け。れ。と。ひ。ひ。ひ。手。と。ほ。ゆ。れ。へ。追。人。の。人。数。く。ち。く。お。さ。す。の。三。八
郎。覺。悟。の。体。殊。勝。る。り。と。ぞ。已。ふ。繩。以。の。と。ん。と。なる。油。断。故。と。ぞ。
ま。か。む。右。傍。門。つ。と。立。上。り。て。一。人。と。踢。倒。し。若。君。と。奪。之。と。

背後おひらき。仁王ならふ立たる。うちよ。形勢あり。追人の人数
く。此。以。及。そ。欺。の。小。なる。口。押。さ。よ。そ。小。打。それ。と。呼。ら。ん。刀。尖。を。う。
て。斬。け。け。た。る。か。む。右。傍。門。手。む。ぐ。く。息。杖。小。仕。ら。な。ら。ち。以。接。て。相。む。ひ。
さ。ら。ぬ。も。う。く。斬。た。う。れ。へ。追。人。の。大。勢。敵。が。と。春。雨。に。打。り。胡。蝶。の
ごとく。才。以。と。不。め。て。せ。逃。去。ぬ。か。む。右。傍。門。今。に。安。し。と。若。君。の。三。削。小
ひ。ぎ。ぬ。は。れ。人。目。以。い。ひ。ゆ。と。此。辺。以。立。の。間。お。の。の。あ。ど。お。ん。氣。に
ま。ま。と。ま。あ。い。さ。ん。が。此。うち。お。ん。才。以。と。の。び。び。び。と。ぞ。月。若。以。所。物
の。うち。お。抱。き。入。柏。木。が。屍。の。あ。り。近。き。流。れ。お。沈。め。て。水。葬。し。又。も
追。人。の。来。ぬ。回。お。と。足。以。ら。め。て。走。り。去。丹。波。以。作。て。又。う。ぬ。
(十一) 断絃の琵琶
ま。も。六。字。南。無。右。傍。門。ハ。若。君。以。救。て。我。家。小。飯。又。一。回。の。うち。に

あつげせおき娘楓も小朝夕心はもちひてやばれた。權月日とせ
はづ一日若君小志をし氣をじさせやんと。楓小ヤ一はけていざあ
まれば煩しや月若ハ世ふらうとじき生れあふ妖鼠の為小髪交の毛と
くひ尽され。剃髪の姿とまり。頭小似合ぬ振袖の綾の小袖の摸
様さ。あこのたあこの捨小舟薄縹の奴袴も。涙の痕の志とあり。
あまおひしげ小出あふ。かむ右傷門楓小令じて柴の折戸はかめさせ。
若君と上坐小ときてしはひ。袂さ一回のせ隠家さとあん氣づる
る存あふ。人目はをのりせ。あはれべんををりし。御先祖とたは
ゆ水バ人王五十九代の帝。宇多天皇の御末あて佐木成頼公の末
孫と生れさせ玉ひ。あまこの人小か。ばれて金殿玉樓のち小生立
玉ひ錦の茵玉の床あに一点の不足る。あまに風小ととあふりむら

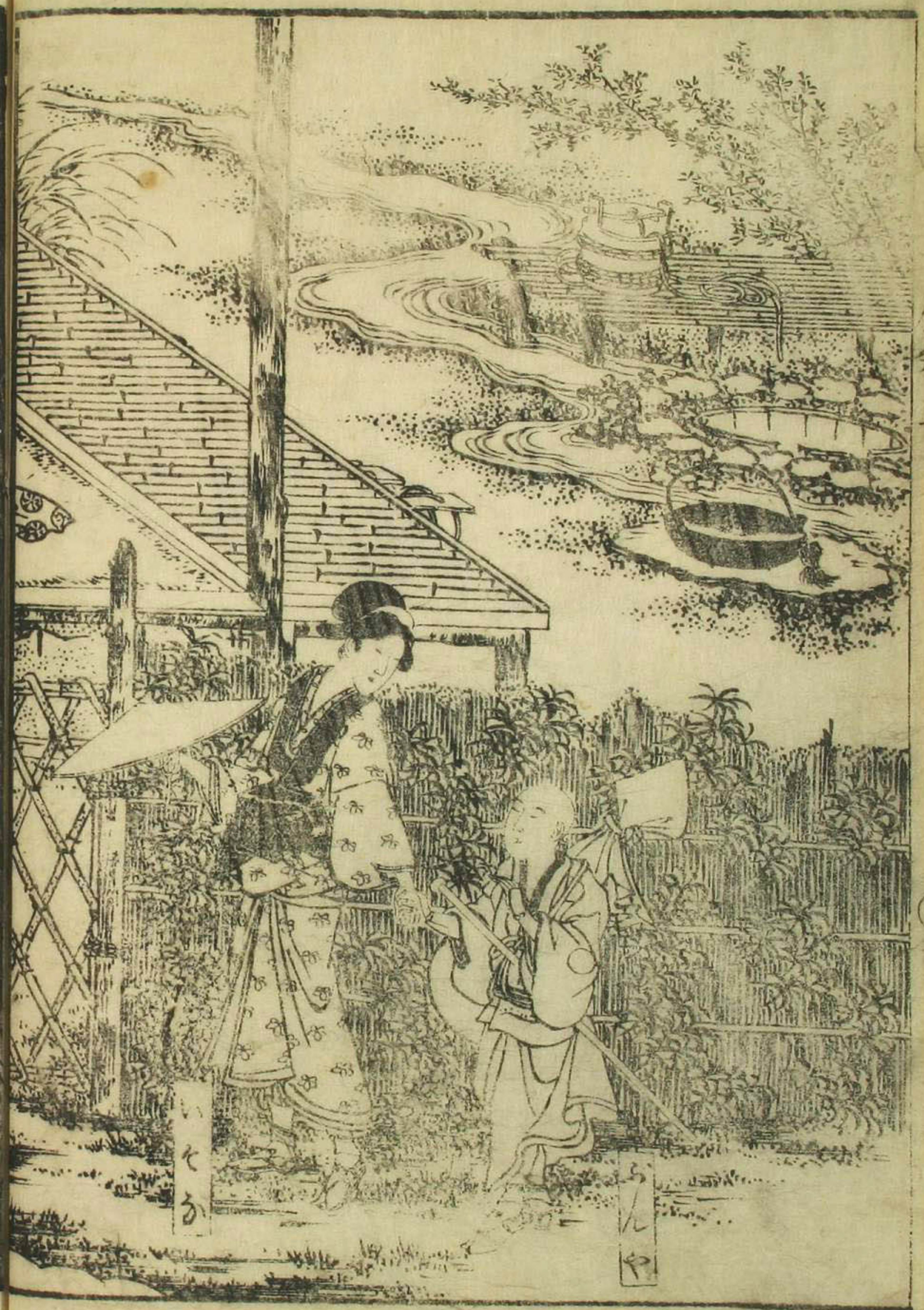
あんあるる小奸臣倭者の為小世はせむめられ。あま貧家小志の心を
むひ粟の飯椽の粥ワグな地命ははるるもの。蕨の地をろ紙づま
夜の物さ薄看あて壁も。月の燈火ふらき地をとまりあふ。い
かさまとびひタル若君のあひま。女が忠志過分ある。我のあ
いうあるるともいはれども。唯氣づりかき父母の功をも。あま御勤
あまの志とるあむひて后はくいうある野をあまでん母上はあまる山三郎小
扶られて落あひいぐ。これも御在所知れらし。追人小捕れ玉ひも
あまべくも。あまあまの父上やあまの母人やとて。あまのび涙にあま
びあまかむ右傷門楓も。あん心根と推量して。あま小袂をあまり
あま折も外の方人の足音ひにければかむ右傷門楓小目ぐハ
あて若君は一回のしさあまぬ体を居たてり。人の親のらら八圍小

あらずも。盲目と有り。我子也。道に迷へ。杖小笠。藤ふぢ。女房の琵琶。瓜背。上よ。盲児の手。引て。四年ぶ。て。我家の。軒の垣。衣の露。草踏。分て。柴折。戸。瓜。ひ。き。えて。ぐ。れ。妻の。儀。菜子。の。文。弥。京。より。て。か。じ。右。衛。門。戸。瓜。ひ。き。えて。ぐ。れ。妻の。儀。菜子。の。文。弥。京。より。て。体。る。れ。ば。こ。へ。さ。ひ。め。ひ。め。と。よ。そ。ま。ぐ。と。も。ち。み。て。う。ち。よ。の。楓。は。や。母。の。声。と。ぞ。ほ。け。て。い。そ。ぐ。く。走。り。出。夫。婦。兄。弟。四。人。の。者。ひ。に。ぶ。つ。の。對。面。ふ。た。が。ひ。の。喜。び。の。ふ。ら。ふ。ら。ふ。と。楓。へ。盥。手。湯。瓜。た。と。母。の。裏。脚。草。鞋。と。足。と。そ。ぐ。ら。ち。と。れ。け。今。ふ。か。り。ぬ。孝。行。と。う。れ。う。れ。に。堪。ご。り。け。り。そ。そ。儀。菜。夫。と。む。ひ。り。よ。と。同。じ。と。の。あ。り。し。く。何。も。語。つ。と。と。らん。や。且。中。と。と。さ。へ。文。弥。支。初。年。ら。れ。ず。も。藝。道。不。心。派。ゆ。と。片。時。も。地。た。ら。ざ。り。し。え。お。の。ぐ。と。妙。法。得。て。師。匠。沢。角。

檢校どのもの。たぐひ。つゝ。用者。之。賞。美。一。玉。ひ。此。系。檀。の。甲。の。琵琶。一。面。不。秘。曲。の。免。杖。瓜。を。て。玉。は。こ。ゆ。れ。づ。ふ。彼。が。一。曲。瓜。さ。る。ぬ。不。しく。二。つ。ふ。楓。が。教。も。つ。ぬ。しく。さ。ら。ち。古。郷。が。あ。ら。し。く。文。弥。も。ま。ま。せ。ゆ。か。ん。か。の。妙。法。を。一。つ。と。い。ふ。文。弥。の。い。と。ぬ。瓜。を。ま。う。と。下。り。ゆ。ひ。ゆ。と。もの。が。た。れ。が。む。石。衛。門。ひ。こ。と。喜。び。む。は。づ。の。對。面。無。事。の。教。へ。て。安。堵。も。あ。り。藝。道。も。上。達。也。と。な。ま。じ。え。ぬ。ち。こ。も。能。生。立。一。あ。つ。た。が。ふ。ご。う。り。不。丈。高。う。ま。り。け。る。と。そ。餘。念。も。く。文。弥。が。頭。瓜。撫。け。い。文。弥。の。恭。しく。西。手。瓜。つ。き。以上。御。安。体。の。様。子。と。う。か。ひ。を。な。ひ。も。堪。え。ず。と。お。こ。り。や。う。相。の。ぶ。る。楓。へ。こ。と。と。十六。才。姿。ま。ま。と。く。美。麗。ふ。て。手。織。木。綿。の。振。袖。も。綾。羅。ふ。ま。る。風。情。あ。ら。母。の。を。ぶ。ち。め。く。り。長。ぐ。の。御。在。京。ご。う。苦。勞。と。ま。り。ぬ。と。あ。け。れ。氣。げ。ひ。く。せ。う。が。恙。も。体。と。て。



六字南無右米の
 月若とかくまひ
 南無右米の妻磯美
 盲児の文跡と具
 京より家小
 飯り来



い
 と
 ろ
 八
 八

かりく心やとまることいひたるべいかく我苦勞よりおことか夏妖蛇も今
 おまらぬよし其刃以て父上孝行尽と辛勞瓜さぞうい推量し
 けられて居ても片時も口とらて夏はふりしぞや縫物髪もよく仕
 おねえはるよし父上の消息おてそく同ねそさういむを髪のか
 つ瓜つりくえまへいそてもうはくううくでさしぞ此きるものもかこ
 ころ縫うのあつむれの手ぎらば廣き都のうちふよとが如き娘
 はずれとるへいさ妖蛇の夏おもひいづて不便ありと何ははけ
 も子以や親の心ぞやせふ良あつてあむ右衛門佐木の館
 の騒動柏木が忠死の子細若君はつくまひおく夏の始末城語と
 さうせけは儀菜かどうけ不慮の御難義いさへさうとて法をれば
 おむ右衛門いふ不ごりふてもめつめ夏そらも文弥も久しづりあて

若君ふめん目くはうまうれこそ楓以はけて輿の一回ふいごあはせ
 ころ木の念珠はぬぐると例の念仏ととも夏はるるふ時刻はうけ
 ーけり日あも漸このころ比京下りの古書画の商人いそががば
 ろうと来て前の日おせまじつる金岡が百寶の繪巻物外不望人
 いそきー夏唯今價とおぼけいむりれば望の方へやぬぐらふといふ
 髪とやんとりふあむ右衛門打困てまの多し火急なりせめて三日ま
 ちむりれやといふ商人類とおふも某も旅つきの夏うれ三日まご
 へすこれかるといふ今夜三更の時をまらちやえんその期がまご
 ればなちふめの方へ賣はるいれをそて詞はつひて立候るやとら外
 方ふ人声して足音ひききけれ何夏あめこのころ同もろく村長と案
 内をて捕手の葦組子さもどろくと入来る組子の頭黒星眼平といふ

きけしあはれくうる野六王法あつて。うたて野六ハ神灵ありて五戒
 のうちありとも偷盗とあまきと。たと塵一とさうきても盗と
 かして。豈とて罰にすあられんや。げんうへに心底やあはれは所存
 やとて。左の手ふらひ首に持て右のさうにきくあけて。頭はのを
 びら打ふ打なや。且怒且悲こ。あつた涙はおはしけり。あふまひ
 しくぬもあを。あつた心もあはれんと。親の是非こそさうかけれ
 文弥やがて越上つて。あがも笑ひていひけり。貧乏者の子こそあはれ。
 正直ふのあては。さても出世はあつた。つじ此金もて富かされば一生ハ
 安樂らう。さばらして呵あひとと。きけばきくやどあてければ。歯はき
 るじて声はあやうげ。大膽不敵の今のこも。さうしうく子とあはれも
 つれど。天魔波旬の所行なり。親子の恩愛これまてうら。

七生よその勅當を。うらうらもさであけて。足はあけて。踢さげせむ。
 交那の財布は懐中。勅當らうこれ。親でも。子にあはれぬ。長居ハ
 無益とほむ。あつた。あつた。探さして。せんこと。かむ右衛門。如心志
 のびど。走つて。又踢たう。おれのあつて。又悪口と悪口と。あは
 らず。踢たう。踢たう。益悪口やあつた。かむ右衛門。いよく怒
 頭肚の用捨も。踏はけり。あつた。あつた。文弥ハ片息ふありあつた。
 かなも悪口とま。あつた。あつた。かむ右衛門。怒気天ふさうのあつた。あつた。
 どのを。援手も。あつた。あつた。肩尖四五寸。あつた。あつた。あつた。
 りて。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 千とちの葛。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 こら。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 剣の下。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

南無右朱の



六子みさき

さ



南無右朱の

怒りふたんど

一子文弥と

手打ち

まりつる

中れ志がしまちあひのふことありとぞむれぬ。あむ右衛門のやとむむるを
 かりく、小生おれた罪はなせんまりのひとひふ手おれむが親の
 慈悲をといひつ。いそ菜おののけつきのけてあなきりつげんこ
 立まる。いそ菜おのの手おれむ。その身は志がふひきかじ息は
 ほしく、あめ金の盗物おれむ。まことへ娘楓が身代ふてゆと
 いごも。かむ右衛門合点せむ。妖蛇ふとぬれ片輪ふ娘は何
 西急ふ大金出してめづる。あんぢもこもよのわるとてあふこはく
 れば。いそ菜奥の方おれむ。やよく娘こ来て父上おことか
 心底ものめられ。ちやしくとよづれへ娘楓一声答てめづる。いそ
 文弥がきりれー体はえてしせめとてぞたづねけむ。いそ菜文弥を
 抱めへ。しうあんが父上お本心はめづるうち。こへてくれとていそ

かりつ楓おれむ。つぎつたにむられども。委細のまけを父上にそく
 く告ぐとていそれてやうく親はあひ。あむ右衛門あうちむらむひ。
 御不審へ理より前の日父上おんものめづるよ。ついでなづゆる百懸の
 巻物。おひのけむと京へるよの商人持参せしが。その商人は捕へ出所と
 なる。盗人の在所もあれ。巻物も手おれ道理とぞも。かむはさへ
 日蓮のぶ。あむへおれむ。さうこそ價は百兩とらふ大金をれ
 ば。おれ手おれむ。がじ我手おれむ。未代盗賊の汚名はさく
 ぐ夏あむ。金はくま。これまて。がれー武士道はとて先祖の
 各事とてけがとて。あむ。無念あり。口はさうとて男かきまき
 むひ。が骨身おれむ。いそ。何とぞ金とてあむ。と。あむ。外に仕
 けも。幸京都五條坂の傾城屋篠村八幡の門前おれ宿。

子の愛着を。世心もかかれあんと。文弥のひやくめ。父上の氣
質。塵をうりも。白がめる。夏にきつひ。是に此金以盗。このひ悪口せ
ば。怒りふ乗。て恩愛の繼。以たら。手打。あらん。心定。志うぐ
る。ふ。心。は。い。ひ。き。け。た。れ。は。い。と。や。う。に。開。き。け。某
宿世の因果。よ。て。盲目。と。なり。は。れ。は。い。と。主君の。法。大事。と。り。よ
こも。戦場。の。ろ。ろ。た。り。が。く。武士の子。と。う。め。れ。た。う。め。ひ。う。り。と。
日。来。う。り。と。く。の。ひ。は。に。若君のおん。お。り。と。る。り。戦場。の。お
死。も。同。然。ぬ。う。り。と。る。り。幸。と。る。り。あ。う。り。と。く。計。も。あ。れ。親
に。む。ひ。て。悪。口。盗。世。に。う。り。と。勿。体。り。て。け。じ。が。し。それ。う。り。は。い。し
ま。この。ひ。は。あ。る。も。そ。日。取。の。こ。と。う。れ。も。さ。あ。く。て。い。は。う。の。愛。念。と
絶。こ。と。あ。い。と。何。事。も。い。ふ。忠。義。の。為。と。て。や。り。く。得。心。と。せ

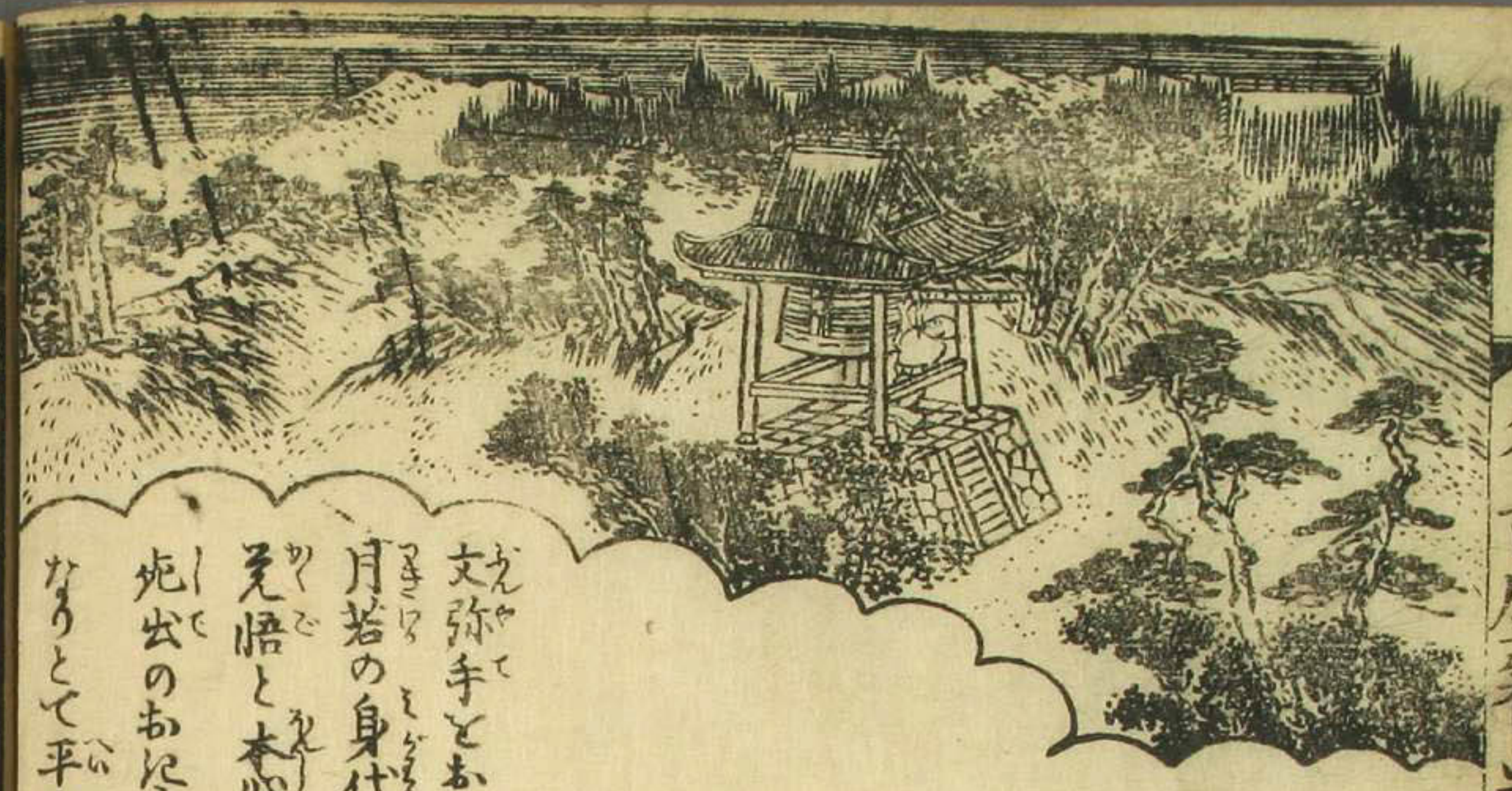
ほ。ふ。け。る。げ。あ。も。く。そ。の。ひ。い。ど。や。め。は。ふ。さ。れ。な。る。と。し。死
な。ど。ま。の。う。け。あ。て。おん。お。の。様。子。は。う。い。ひ。し。ふ。若君。は。も
ろ。ひ。て。の。ぐ。れ。出。の。ろ。ろ。の。時。へ。ま。り。死。と。覺。悟。の。体。ふ。と。な。れ。ど。
村。の。口。ぐ。山。道。ま。で。捕。手。の。人。教。め。ら。居。る。は。同。く。し。れ。は。と。て。も
の。ろ。ろ。道。は。は。し。き。と。首。と。り。臉。は。う。さ。ふ。盲。目。日。お。れ。の。差
別。も。あ。じ。た。と。眼。平。若君。の。おん。お。は。知。と。も。忠。義。の。心。以。て
あ。い。む。く。や。り。仕。損。し。は。し。大夫。夫。の。おん。お。は。思。愛。ふ。ひ。り
さ。れ。て。お。あ。り。か。こ。ろ。ふ。の。お。愚。智。ふ。女。の。心。と。い。ひ。朝。夕。と。あ。れ。ど
手。あ。わ。た。め。け。て。こ。れ。ま。で。ふ。育。め。げ。た。う。い。と。し。子。は。と。め。て。殺。さ。う。と
胸。の。うち。法。推。量。く。さ。れ。し。あ。う。の。ろ。ろ。と。娘。相。志。の。つ。り。れ。と
い。ひ。あ。う。の。お。の。親。の。情。は。我。子。の。片。輪。は。と。こ。ま。で。も。の。く。し。と

常るる諸人ふ親戚さらさらせて丹波の国の恩果娘と
 のちくもをもろぢり残さとも不便さよ妻が身やめて十年に若
 く此才瓜賣ても娘にうき目へせほものときなてく兄弟
 うらりの手とさうらうまふおられぬとせじとた志のひほつた涙
 験の堤をゆきりてのうれおるぞことよりうらふむ右馬門始終と
 同くふひるるれば百倍おほく鉄石のごとれた心も肝ふやきかみさ
 ろるひ五臓六腑悩乱し志が詞もいざざりかやのうそいひるるハ
 文弥夏若君ご同年といひ剃髪の決意といひ親あつちも似たる
 由多坊んがかりとふひはれていえうごも何ゆふも盲目みて用ふたご
 と一番ふひて死首のまごご瓜賣る盲目のあれたるそなき一所
 ふははゆなりも心ほらばり狙も容へとぶれたれども片輪おれば

身うりもふらぶと嗚呼やうらみの子ごもへ持まら親の恩果が子に
 報忠義の用ふたごうまごを残念ふふひがごを瓜賣るドの兄弟の
 子ごもらたぐひまされあう心底うか持まらの子あつちといひて涙と血と
 相和して滝のごとくお流しけらし文弥の介抱あてやりくと起
 あやうとおとさうやふ手瓜はれていひけうへ渴しても盗泉の水を
 飲どとやんまぐもの瓜母人のあふせよひちまぐ盗ぬ金瓜次皿
 こ親をいりもろ詞の罪坊んおしんごされし果報はごあて生れ
 もほらぬ盲目ごありぬればせめて藝道をとくげも父母老後の
 心瓜安め片輪お奴ふ法不便はごくまひ法養育くまれ大恩と
 むくはんものごそれたのうふ四年ごのこ精神瓜ごせし此交若君
 に一命瓜たてまつり婿うも身瓜賣まば此志はご心ぶごお不さ

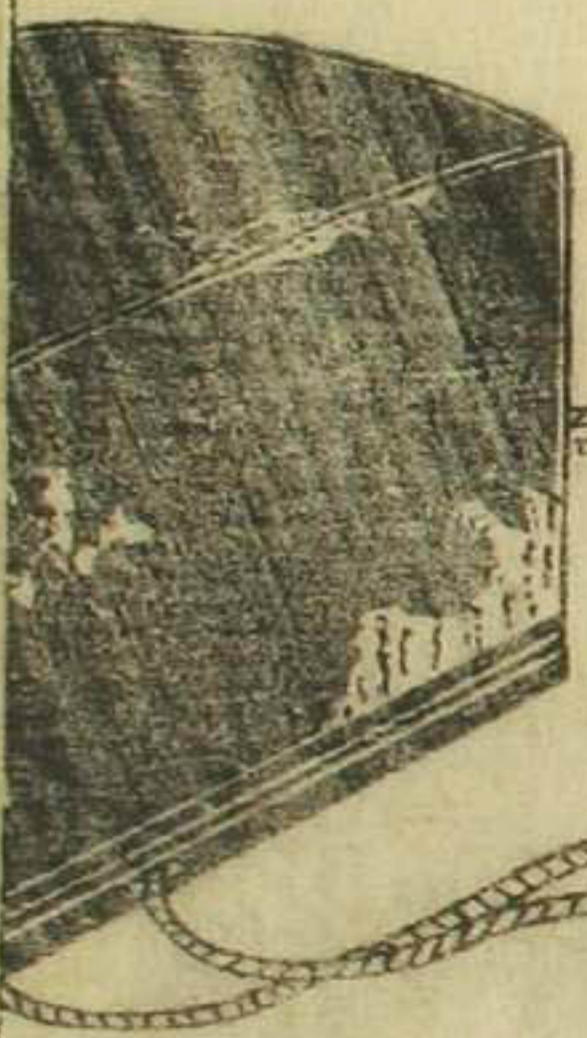
もん生いつれ死につれと兄弟あな二ふ乃ふワれれも死ハ一旦はしては安く生て
諸人あ小さ面ま瓜をさじ父の汚か名な瓜をとぐんとおないりとは姉あうの心こ底ぞい
又ふ一がたれ孝か行く之の此ま年ま来ま子まび得一い琵琶ひの一手て以ち父の一い同せ
中ち々々で死すの心こ残りふゆべめ手て以ち肩かておなほけうあらふをべれるも
一曲いはふまりゆい一い冥めい途との旅のおた土産さふにめととおないり
されては梵ぼん天てんをされし母は人まさぬその琵琶をさらふあぞいそ菜か
法はく琵琶をさらふてあられべしワどくふ年ねんハ十一いち才さいの盲児ごが
縹えん木も綿めんの肩のげふ血一いや志たらる瘡口くちのいとまとさへて琵琶
かきまかしいと苦一いげふ声こゑたらる平家けいとぞめりけり
さらあじふ一の谷の軍やぐれ一武ぶ藏ざうの国の住人ぢゆう熊くま谷や
次郎じぢろう直ち實じつ平へい家けの公達たつたとけ船小せうのんとていまいの

からあちおれあらんあらんあられられら大だい将しょう軍ぐんふくぬぐと
あらひあそらあらからつていまいのいまあらぬとる所ふそふ
ぬらぬらふ雀々々直ち垂たれ小せう萌もう黄わう薰こんの鎧着ぎて敵
形かたち打うたる甲かぶの緒を志め黄金作さくの太力ちからを志め二十じゅう四しのさのさ
あらまりの矢おひ頻ま藤とう弓きうりち連れん銭せん馳ちある馬まふ金覆ふく
輪りんの鞍おいてのつらりける者一いつ騎き沖おきある船ふねを目おろけ海へ
さらと打へ五六むたんむらとどおろめせらる
とうたふ唱しやう哥かも声もしりひくもうたてたらるあらぬとる日
来きの手練ねんこいひ此世よのあらりとらふ苦一いれ息とらげませらる三
重ちゆうの甲とおげ初重ちゆうのこおらていひと海うみたりければ大だい絃げんの嘈
として多心しん雨うのごとく小せう絃げん切きとして私語ごのごとく昭せう君きん馬ま上うあらぶ



文弥手とおひまの
月若の身代おまん
免悟と本心と
死出のおにまげ
なりとて平家と

かろ其色
いともわれ
あ



おんや

いとふ



いふふ



いへ

楽天客舟小岡ほるふも。さらぬにまらりて哀るる。かむ右脇門耳と
 そびだて、岡居たるが。恩爱切ある難のう(ふ)めう(う)かほ(き)調(と)まけ
 ば皮肉もをちまう(う)ちし(て)る(う)つ(て)ぞ泣(な)伏(ふ)々(と)礫(れき)菜(さい)楓(ふう)も(も)ろ
 こも不(ふ)涙(なみ)ふ(む)む(む)む(む)り(る)る(る)文(ぶん)弥(や)い(い)ち(ち)も(も)声(こゑ)ふ(ふ)り(り)た(た)て
 熊(こ)谷(や)あ(あ)も(も)を(を)ち(ち)く(く)と(と)あ(あ)ぐ(ぐ)て(て)あ(あ)れ(れ)法(は)覚(かく)ゆ(ゆ)い(い)ふ(ふ)も(も)し(し)て
 た(た)ま(ま)け(け)ま(ま)ら(ら)ず(ず)見(み)ん(ん)と(と)存(ぞん)ゆ(ゆ)ども(も)味(あじ)方(か)の(の)軍(ぐん)兵(ひやう)ら(ら)ん(ん)の(の)こ(こ)と(と)く
 う(う)ち(ち)く(く)て(て)ぶ(ぶ)も(も)の(の)ご(ご)ま(ま)わ(わ)せ(せ)ぬ(ぬ)れ(れ)ど(ど)あ(あ)い(い)も(も)お(お)ち(ち)う(う)う(う)ハ(ハ)直(ち)実(じつ)が
 手(て)に(に)め(め)け(け)を(を)り(り)て(て)後(のち)の(の)法(は)孝(かう)養(やう)も(も)ほ(ほ)う(う)あ(あ)つ(つ)り(り)ゆ(ゆ)い(い)ん(ん)と(と)サ
 ぐ(ぐ)れ(れ)バ(バ)只(ただ)何(なに)様(やう)も(も)さ(さ)り(り)く(く)首(くび)を(を)と(と)れ(れ)と(と)の(の)こ(こ)ら(ら)ひ(ひ)ま(ま)る(まる)く(く)ぬ
 ぐ(ぐ)あ(あ)ぬ(ぬ)り(り)ふ(ふ)い(い)と(と)さ(さ)り(り)く(く)そ(そ)い(い)づ(づ)く(く)ふ(ふ)力(ちから)を(を)立(た)べ(べ)ー(ー)と(と)も(も)お(お)え(え)ど(ど)目(め)も
 ろ(ろ)れ(れ)心(こゝろ)も(も)さ(さ)え(え)な(な)る(る)も(も)前(ぜん)後(ご)ふ(ふ)く(く)ふ(ふ)お(お)え(え)な(な)れ(れ)ど(ど)ほ(ほと)も(も)あ(あ)ま(ま)さ
 こ(こ)と(と)あ(あ)ま(ま)ね(ね)バ(バ)ち(ち)り(り)く(く)首(くび)を(を)と(と)か(か)ら(ら)せ(せ)げ(げ)る(る)

の疵(きず)口(くち)より。さ(さ)と(と)あ(あ)ぐ(ぐ)れ(れ)バ(バ)あ(あ)か(か)苦(く)し(し)也(や)。あ(あ)ま(ま)ら(ら)う(う)た(た)ふ(ふ)こ(こ)と(と)あ(あ)ま(ま)ひ(ひ)が(が)し(し)。
 ろ(ろ)れ(れ)ま(ま)で(で)ぞ(ぞ)と(と)て(て)琵琶(ひ)お(お)た(た)此(こ)の(の)杖(つゑ)と(と)な(な)り(り)の(の)暗(あん)光(くわう)道(どう)
 死(し)出(で)の(の)旅(たび)路(ぢ)ハ(ハ)殊(こと)更(さら)黒(くろ)闇(やみ)地(ぢ)獄(ごく)不(ふ)迷(ま)行(ぎやう)無(む)目(め)の(の)餓(が)鬼(おに)こ(こ)生(な)れ(れ)出(で)て
 呵(か)責(せき)び(び)ら(ら)う(う)け(け)ん(ん)心(こゝろ)定(ぢやう)ま(ま)る(る)。そ(そ)れ(れ)と(と)不(ふ)便(びん)と(と)お(お)ぢ(ぢ)と(と)る(る)。未(ま)期(き)の(の)水(みづ)以
 さ(さ)う(う)ち(ち)に(に)逆(さか)縁(えん)を(を)り(り)か(か)手(て)づ(づ)く(く)。香(かう)花(け)と(と)手(て)向(むか)ひ(ひ)な(な)ぬ(ぬ)れ(れ)我(わ)の(の)た
 め(め)の(の)功(こう)徳(とく)あ(あ)ハ(ハ)他(た)人(にん)の(の)千(せん)僧(そう)供(きやう)養(やう)ふ(ふ)り(り)。な(な)ら(ら)ず(ず)ふ(ふ)ま(ま)ま(ま)り(り)ぬ(ぬ)じ(じ)な(な)ふ(ふ)
 親(おや)子(こ)ハ(ハ)一(いち)世(せい)の(の)ち(ち)ぎ(ぎ)り(り)こ(こ)き(き)く(く)ふ(ふ)盲(まう)目(め)の(の)つ(つ)ま(ま)ら(ら)ず(ず)父(ちち)上(じやう)母(ぼ)ら(ら)ん(ん)千(せん)万(まん)年(ねん)の(の)お
 世(よ)に(に)た(た)て(て)冥(めい)途(と)へ(へ)ち(ち)を(を)夏(なつ)あ(あ)り(り)も(も)お(お)教(お)成(なり)ん(ぬ)る(る)夏(なつ)あ(あ)ら(ら)じ(じ)こ(こ)と(と)あ(あ)ら(ら)れ
 が(が)三(さん)世(せい)の(の)つ(つ)れ(れ)。又(また)あ(あ)ま(ま)ら(ら)ず(ず)あ(あ)ら(ら)じ(じ)こ(こ)と(と)あ(あ)ら(ら)じ(じ)く(く)な(な)ら(ら)ず(ず)父(ちち)ら(ら)へ(へ)

ござふちのどをどいひつたひよりて。かむ右衛門ふさうとさぐり。あう
 ちと探りつ。扱まるり。後苦勞はあさうとあさう。いさうおれがまへへる。
 かまうどひひあふまふ。さうくおんお悪く。寿長く地へいませ。今般
 のまふまで孝心のふたれ詞ときくふあふ。かむ右衛門胸ふさうり。主君の
 御先途えさうりて。后の藤波が縁者たぐひ。恨ふの刃ふかりて死を
 だれかひその覚悟あれべ。さへば蜂蟻の一期をて聖をもあふぬ。このあ
 るふまふとさぐり。もあふとじて長生せよと。さうのひびごとと。心ふ
 へるひあふ。口あへえいん。過去の修因。今生の現果はさうりけり
 我うまふ。のいひて。さうく涙ふむまびけり。磯菜根あ人へ文弥が左右
 ふさうとほれて。うれが三世の口うれうと声もか。まふとほれれば文弥へ
 ふさうがさうらとさぐり。せめての夏あな。一目おん教とさて死なきこと

ぞ亡目さうのいへ何の因果と又今更にわたさうて血は吐をり
 泣るが折しも空ふ時鳥。一声あれて過るおぞ死出のなまのあさ
 あぐく苦痛は見ん。いふもさうくあふ人のあん手にあふ。さうと西ふ
 いふひて合掌し。あふと念仏とさうり。いさうと催促し。首さの
 て。まうちければかむ右衛門子さげさうられて身は起し。かを扱をばめ
 やがてし。ろふさうまへとけり。が前ふ斬し。大怒の刀。今の力に思愛の切り
 乙ひの剣るれ。手も抖に脚も軟きて。いづくも剣はあし。さうあえど。
 今因はる琵琶の唱。熊谷の次郎の敵でさ。敦盛は打つ子。さうり
 もの瓜。現在我子。は斬ゆ。いさうでさ。た忍び。さう前後不覚の体。あひ
 時刻うほりて。仕損た。あふれが忠死も水の泡。さうとひさうり。あふ
 足ふさじりつ。若我成佛十方世界念仏衆生。根取不捨。面先

若君瓜ワカをしすめして交ま交ませばともひつる。立たち上りしも妻の菜息もほれあんどんを飯の様子いやまをなぐめれば文弥が一念頭ふとまらし。陰え気きと吐て眼平が眼をくませ。十分に欺きしともていそ菜心おち。ほれの巻物ととし出いてりさぶかむ右衛門ひりにてお家の重。宝ふたたれほと巻物ととし出いてりさぶかむ右衛門ひりにてお家の重。末代まももまよめじ。これとも楓が孝心ふらん由急を娘ハもと旅立ちら。の多不便。まもめじのん今をめ。切水瓜楓ともなしも。切水瓜楓ともなしも。ハ暮手の畧訓あて小蛇のたう前表かん文弥が初名瓜栗太郎と名づけも。丹波の国の爺打栗爺お打る因縁只此瓜文弥が菩提とも入が肝要まらし。眼平一交假首ともとめれ。今ふそれとのめられて。うまひ。こふを来んハ必定まらし。片時もちや。若君瓜おじ。トもよまりしと

のひて奥ふ入月若の手瓜たらまて立つぐれば若君ハ目瓜注し。夫婦の忠節過分まらし便りに文弥がおのいそやとまらしけき。の多一言づ。妻ふあらし。の千石しし。夫婦がおあらし。め。かむ右衛門巻物と懐中一。躬といれらる葛筆とておひ若君のおん手瓜られば妻のいそ菜ハ琵琶といつた地水火風の四ツの緒のきれ。我子のめとと轉手捲面半月の月の光り。ならし。あて播磨のめととめらし。け。○めてかむ右衛門夫婦若君瓜扶て播磨しり河内ふいり取縁の寺にたらして文弥が躬と畑とか。め。の琵琶と施物。て。仏豆といつらる。若君ふいそ菜瓜つけての寺に忍ぶ。おじのおいの巻物瓜たらまる。桂之助銀杏。

前まへの。ゆくへはたがひきよ。しんせうそと

前巻之三

巻之三終

